

学校力向上の具体的取組

～地域・企業連携によるキャリア教育の取組～

北海道富良野緑峰高等学校 学級数11 (校長 新山 雄士)

1 はじめに

本校は、第一次産業、第二次産業、第三次産業それぞれの代表である農業、工業、商業について学ぶことのできる職業学科集合型の専門高校である。それぞれの産業が関連し経済活動が成り立っていることを一つの学校で実践的に学ぶことのできる、非常にユニークな学校である。平成27年度から3年間、「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」の研究指定を受け、小中高が連携しながら、富良野市をはじめ地元企業の支援を受け、体験的な学習や職業体験、キャリア講演会等を実施するなど、地域の人材や教育資源を効果的に活用し、ふるさと富良野に愛着をもち、地域社会に貢献できる人材育成を目的とした取組を行った。また、平成28年度から3年間、「U-18未来フォーラム事業」の研究指定を受け、海外との交流を通して、ふるさとのよさを見つめ直すとともに、ふるさとの課題解決に向けて積極的に取り組む人材の育成を目的とした取組も行った。

これらの研究指定事業から得られた成果をもとに、本年度は地域及び企業とより密接に連携したキャリア教育に発展させ、学校力の向上に取り組んだ。

2 実践の概要

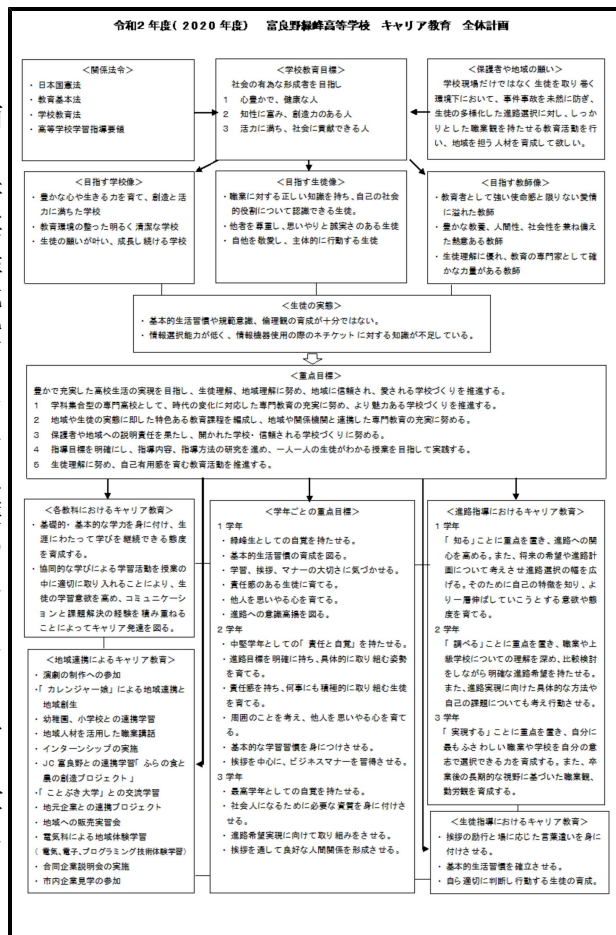
(1) キャリア教育の全体計画

本校のキャリア教育の全体計画は、右の図に示したとおりである。

全体計画の立案に当たっては、学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態やキャリア発達上の課題を把握し、育成すべき資質・能力を重点化した上で、キャリア教育の目標を設定するよう留意している。

この全体計画は、進路指導部長を中心に策定し、年度当初に本校のキャリア教育の取組について、教職員間で共有するとともに、生徒や保護者、地域の住民とも共有し、目標の実現に向けて取組を推進するために活用している。

各教科・科目等や進路指導におけるキャリア教育はもちろんのこと、インターンシップをはじめ、各学科を中心に地域や企業と連携したキャリア教育を積極的に行い、学校の教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んでいる。



<図> 緑峰高校キャリア教育全体計画

(2) 各学科における取組

ア 園芸科学科の取組

(ア) 食育活動

本校生徒が講師となり、富良野市内の幼稚園児や小学生を対象にした食育活動を行った。幼稚園児を対象にタマネギ栽培（定植、観察、収穫）の指導、小学生を対象にジャガイモ栽培（定植、観察、収穫、調理）の指導を行った。また、JAふらの青年部と連携し、ご当地グルメの「オムカレー」を小学生と一緒に調理した。



<食育活動の様子>

(イ) 地域の飾花活動と草花交流

本校生徒が播種・育苗した花壇苗によるプランター設置等を、駅前やホテルの建ち並ぶ北の峰地区に設置し、地元の観光シーズンを飾った。グループホームを訪問し、本校で栽培した花やドライフラワーを用いながら、地域の高齢者の方々と交流を行っている。

(ウ) 企業と連携した商品開発

地元の会社と連携し、本校生徒が生産したサツマイモやメロンを原材料としたお菓子の商品開発と販売を行った。

富良野でワイン製造を行っているブドウ果樹研究所で、ワイン製造の過程から発生するブドウの搾りかすを利用したパン製造を行った。また、日糧パンと連携して「オムカレー風パン」を商品開発し、全道で56,000個を販売した。



<商品販売の様子>

(エ) 「オムカレー」普及活動

富良野オムカレー推進協議会と連携し、地元のスーパーやイベント等でご当地グルメ「オムカレー」の提供を行い、普及活動を行った。

(オ) 販売会

本校生徒が作った野菜や花等を本校や地域イベントで販売を行った。また、生徒がグループに分かれ、訪問販売等を行った。



<オムカレー普及活動の様子>

イ 電気システム科の取組

(ア) プログラミング・電子工作教室

一般社団法人富良野デザイン会議暮らしステーションと連携し、ふらのみらいらぼ「はたらく人になって～ICTエンジニア～」第1回ワークショップに本校生徒が講師として参加し、小中学生や大人を対象にarduino（アルディーノ）と電子回路を組み合わせて「バス表示灯」を再現した。また、「U-16プログラミングコンテスト」でも講師を務めた。



<プログラミング・電子工作教室の様子>

(イ) 電気電子技術体験教室

本校生徒が講師となり、小中学生を対象に電気工事（屋内配線工事）、電子制御（マイコン制御）の体験教室を実施した。

(ウ) 電気工事体験交流会

道北電気工事業協同組合青年部富良野支部と連携し、本校で「電気工事体験交流会」を実施した。電気工事士としての重要なスキルや必要な資格等についての講義の後、金属管を曲げる作業、高圧電線の接続作業の実技講習を受講した。特に学校ではできない外線工事は、生徒にとって貴重な体験となった。



<電気工事体験交流会の様子>

(エ) 冬休み親子製作教室

工業クラブ主催の親子工作教室を開催した。小学校第3学年までは、2つのモーターで動き回るチョロチュウメカの本体を製作し、第4学年以上は本体に加えてコントローラーボックスの製作を行った。



<冬休み親子教室の様子>

ウ 流通経済科、情報ビジネス科の取組

(ア) 企業視察研修

富良野商工会議所と連携し、富良野市の助成金を活用して、富良野市内の企業（オサダ農機、新富良野プリンスホテル、ふらのジャム園有限会社共済農場）への視察研修を行った。



<企業視察研修の様子>

(イ) 商品開発

市内のレストラン「フラノフレンチ岳」とご当地弁当を共同開発した。市民から集めたアンケートを基に、地元食材にこだわり丼物とサラダを作った。富良野らしさを分かりやすく伝えるため、パッケージに北海へそ祭りの公式キャラクターの「へそ丸君」を印刷し、弁当のふたは、「へそ丸君」の被り笠をモチーフにした。弁当は地元の食材を盛り込み、食べた人に「楽しさ・喜び」を届けたいとの二重の意味を込め、「プレゼント・ボックス」と命名した。今後は、フラノフレンチ岳において、予約販売が予定されている。好評を得ることができれば、へそ祭りなどのイベントで観光客に販売することも検討し、地域観光の目玉にしていきたい。



<ご当地弁当販売の様子>

(ウ) 地元イベントへの参加

富良野商工会議所等と連携し、地元イベント「ふらのパンスイーツフェア」や「ふらのワイン祭り」に参加し、商品販売や「ワインレディ」としてブドウ踏みを行い、イベントを盛り上げた。

(エ) 英語科の取組

全校生徒からボランティアを募集し、夏季休業期間中に、富良野駅にある商工観光課の観光デスクで富良野を訪れた外国人に対し、英語による観光案内を実施した。

(オ) インターンシップ

富良野商工会議所、富良野市教育委員会の協力を得て、実際に企業を訪問し3日間のインターンシップを行った。将来の職業選択や自己の適性を見極めるための1つの重要な機会として実施している。

(カ) 合同課題研究発表会

各学科で科目「課題研究」において、地域の課題解決に向けた研究活動を行っている。昨年度まではその研究成果を各学科内ごとに発表していたが、それぞれの産業の地域課題を知ることで、生徒が自己の研究に還元できるようにするため、昨年度からは3学科合同で発表会を行った、また、この発表会には、全校生徒のほか、富良野市教育委員会、市内中学校、学校評議員、地元の高齢者で構成されている「ことぶき大学」の方々を招き、外部からの評価を得るとともに、高校生が地域の課題の解決に向けて学習していることを知ってもらう機会とした。



<観光ボランティアの様子>



<インターンシップの様子>



<合同課題研究発表会の様子>

3 成果と課題

- 農業・工業・商業の3学科で地域の課題に目を向け、様々な企業等と連携をした取組を行うことができた。その中で、生徒の自己達成感・自己有用感・地域課題解決能力・コミュニケーション能力が向上した。
- 生徒のふるさとである富良野に対する興味・関心が高まり、積極的に地域のイベントに参加し、自ら課題解決に向けて取り組むことができるようになった。また、市内への就職率が前年度の29.5%から40.4%に向上した。
- 地域との連携がより深化することにより、地域とともに生徒を育てるという環境が構築され、学校力の向上が図られた。
- 今後、ポートフォリオ等（①学習前の考え《診断的評価》、②学習中の考え《形成的評価》、③学習後の考え《総括的評価》、④学習後の考え《自己評価》）を利用し、生徒自身が意識の変容を自覚できるように工夫する必要がある。
- 現在、主幹教諭が地域連携コーディネーターの役割を担っているが、さらに地域の教育資源の活用を進めるため、学科間・教科間・分掌間の連携を図る必要がある。校内研修等を実施し、地域連携の指導方法や評価の在り方について教職員一人一人の指導力向上を図り、学校力向上につなげたい。
- 地域連携に伴う「生徒の移動手段の確保」「教職員の対応」等の課題解決に向けて、地域の関係機関や市教委と協議を継続する必要がある。